

**令和6年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告**  
**「やってみよう！環境学習プログラム」**  
**第4回「私たちの生活と天気」(テーマ：温暖化、気候変動編)**

□実施日時 令和6年8月6日(木) 13時30分～15時30分

□実施場所 水素情報館 東京スイソミル

□受講者数 14名

□実施方法 対面

□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
- ・環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

2. 講師からの講義・体験

(1) 学習のポイント

天気がどうして変化するのかを学び、地球温暖化を身近に感じる現象についての説明や、地球温暖化から身を守るための行動、アラームの種類などを知り、天気と防災の関係について興味関心を持つ。

(2) 講義

①「私たちの生活と天気」(講師：気象庁大気海洋部予報課 予報官 新海 敦彦 氏)



○気温と降水量の変化

二酸化炭素やメタンガスが産業革命前よりもかなり増えており、世界のほとんどの地域で気温が上がっている。近年、集中豪雨が問題になっているが、実は日本、東京ともに雨の降る量には変化がなく、短時間の強い雨の回数が増加し、一方で雨の降る日は減っている。これは気温が上がると空気中に含むことができる水蒸気の量が増えるため、雨の降る間隔が長くなり、一度に降る雨の量が増えることによるものである。

## ○災害対策

急な大雨や雷・竜巻は真っ黒な雲が近づいてきた、急に冷たい風が吹いてきた等の前兆がある。前兆を感じたら、頑丈な建物の中に避難する、川の近くから離れる等の対応が必要である。台風による大雨や暴風の際は無理に外に出ない、非常用品の確認、水の確保等の必要がある。災害レベル5は災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況のため、警戒レベル4までに必ず避難を行う。気象庁のHPにあるキキクルで災害の危険度を確認できる。

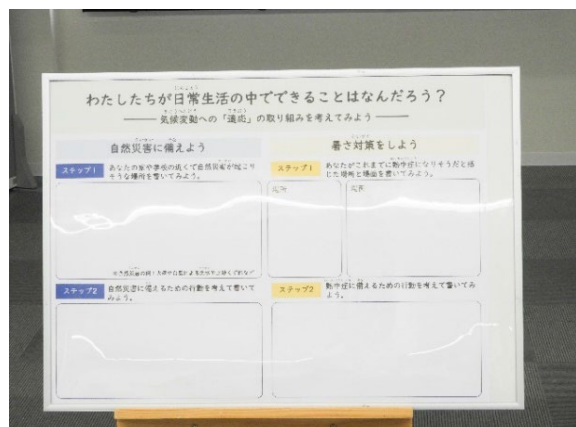
## ②小学校向け学習用副教材「東京都の気候変動対策～適応から考えよう～」についての紹介 (講師：東京都環境公社 東京都環境科学研究所 気候変動適応センター 佐藤 翼)

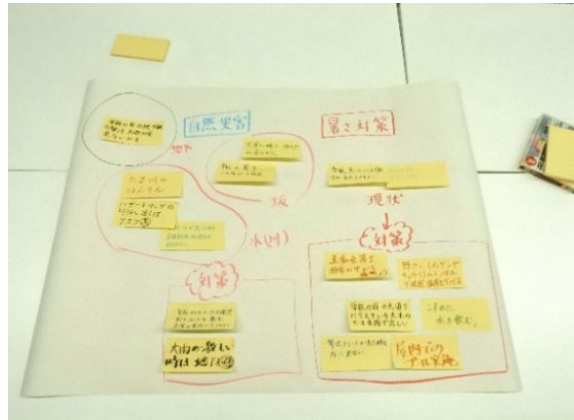


気候変動適応センターでは学校の授業で活用するための気候変動適応に関する学習用副教材（動画、授業用スライド、資料、ワークシート、マニュアル）を作成し、ホームページに掲載している。教材は2時間分での授業を前提に制作しており、授業を通して気候変動の自分ごと化を図る内容になっている。ワークはステップ1で自然災害のリスクの高そうな場所、熱中症のリスクを感じた場所と場面を考え、ステップ2で自然災害に備えるための大事な行動3つ、熱中症に備える大事な行動3つを考え、最後に振り返りを行う内容になっている。気候変動の授業をする際に役立てていただきたい。

### (3) グループディスカッション

実際に副教材を使って自然災害対策と暑さ対策についてディスカッションや情報交換を行い、班ごとに発表した。







(質疑応答及び受講者同士の意見発表)

先生方の学校周辺の環境や立地などで、災害の種類が異なるので、危険な場所や対策についても異なる意見が出た。

#### ○ワークで出た意見

##### ①自然災害対策

###### (1) 自然災害が発生しそうな場所

- ・川沿い、坂の下、地下鉄の駅など。

###### (2) 自然災害に対する対策

- ・地下鉄や危険な場所を避ける。
- ・学校の備蓄を知る。
- ・おうちの人との連絡方法を知る。
- ・ハザードマップを自分たちで作る。等
- ・防災キャンプを企画・体験する。

##### ②暑さ対策

###### (1) 暑くなりそうな場所

- ・日があたる場所、日陰が無い場所。

###### (2) 暑さ対策

- ・運動会等を屋内から参観する。
- ・こまめな水分補給。
- ・野菜のトンネルで体感温度を下げる。
- ・登下校時はネックリングをする。
- ・警戒アラートが出たら外に出ない。
- ・帽子をかぶる。等
- ・グリーンガーデンの効果を調べる。
- ・熱中症の初期症状を調べる。

◎アンケート記入等(事務局) アンケート提出後、解散